

[成果情報名] 清水地域におけるサンショウの主要病害虫

[要約] 清水地域におけるサンショウ病害虫の種類は病害がさび病のみで、害虫は15種類みられる。さび病、チャノキイロアザミウマ、ミカンハダニ、カンザワハダニは多発による早期落葉被害を与える重要病害虫である。

[キーワード] サンショウ、病害虫、さび病、チャノキイロアザミウマ、ハダニ類

[担当機関名] 果樹試験場・環境部

[連絡先] 0737-52-8717

[部会名] 果樹

[分類] 指導

[背景・ねらい]

有田郡有田川町清水地域におけるサンショウ栽培は約50haと日本一の産地であるが、過去に調査研究された病害虫の報告は少ない。このため、サンショウを加害する病害虫の種類と主要病害虫の発生実態、発生経過を解明し、防除対策の資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. サンショウにおける病害虫の種類は病害がさび病のみで、害虫は15種類みられる（表1）。主要病害虫は発生量と発生圃率からさび病、チャノキイロアザミウマ、ハダニ類、アブラムシ類等である。サンショウはみかん科に属することから、さび病とマメコガネ以外はカンキツ類で発生する種類である。
2. さび病の初発は6月からで、病斑は8月以降急増し、9月に多発圃では全葉に病斑及び夏胞子が発生し。病斑の程度（被害度）は10月にピークとなる（図1）。病斑の多発した葉は9月頃から早期に落葉するため、9月以降に発病度が低下する。
3. チャノキイロアザミウマは葉裏、果実に寄生し、茶褐色になる。葉の被害は6月から多くなり、収穫後は防除の不徹底もあり、被害が多発する（図2）。多発しても葉は落葉しないが、果皮が茶褐色になると商品性が損なわれる。
4. ミカンハダニは5月から9月に発生し、8月に多く発生する（図3）。カンザワハダニは5月から8月に発生し、6月に多く発生する（図4）。ミカンハダニと混発することがある。多発すると葉緑素が吸汁されて葉が白くなり、落葉に至ることがある。
5. アブラムシ類は主に6月から7月に新梢、新葉、果房に寄生し、多発するとスス病による被害を与える。カンキツ類でみられるミカンクロアブラムシ、ワタアブラムシ、ユキヤナギアブラムシが寄生する（表1）。
6. さび病、チャノキイロアザミウマ、ハダニ類は早期落葉による二次発芽により翌年の収量減につながるため重要病害虫である。

[成果の活用面・留意点]

1. 調査圃は2005年の1圃を除き、薬剤防除が行われている。

[具体的データ]

表1. 有田郡有田川町清水地域におけるサンショウの病害虫と発生時期（2003～2005年）

病害虫名	発生量	最多発生園率	発生時期	病害虫名	発生量	最多発生園率	発生時期
さび病	多	100%	6-10月	アオバハゴロモ	少	20%	7月
ミカンハダニ	中	40	5-9	キジラミの1種	少	10	6
カンザワハダニ	中	30	5-8	クワシロカイガラムシ	中	—	4-10
チャノキアザミウマ	多	100	4-10	ミカンコナシラミ	少	10	6
クロトンアザミウマ	少	30	8-10	アゲハ類幼虫	少	40	6-9
ミカンクロアブラムシ	中	20	6-9	シャクガ類	少	30	5-7
ユキヤナギアブラムシ	少	10	6-7	コウモリガ幼虫	少	—	7-10
ワタアブラムシ	少	10	6-7	マメコガネ成虫	少	30	6

(注) 清水地域内の10園を定点とし4月から10月まで月1回調査し、最多発生園率は10園より算出。—は定点以外で発生を確認。

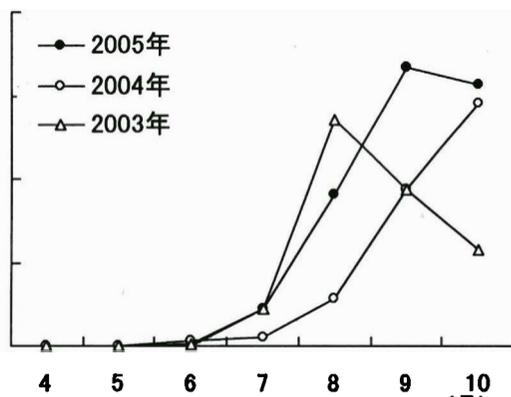


図1. サンショウ葉のさび病被害の推移 (月)

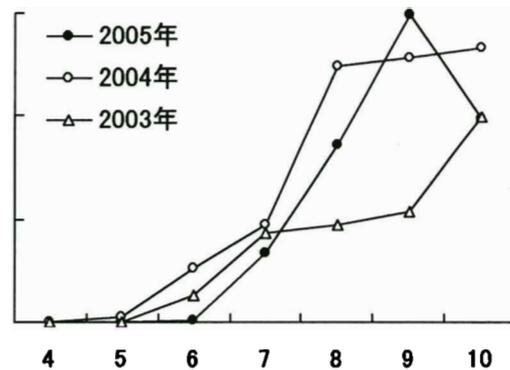


図2. サンショウ葉のチャノキアザミウマ被害の推移 (月)



図3. サンショウの葉におけるミカンハダニの推移

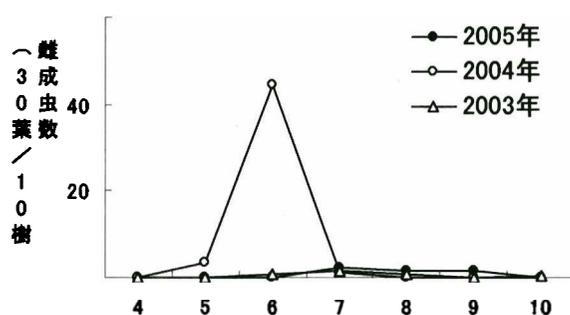


図4. サンショウの葉におけるカンザワハダニの推移

[その他]

研究課題名：果樹病害虫防除技術の開発

予算区分：国交

研究期間：2003～2005年度

研究担当者：大橋弘和

発表論文等：